

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 014	提案機関名 よこすか葉山農業協同組合
要望問題名 極早生たまねぎの品種の選定、栽培方法の確立	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 近年、キャベツの安値が続き、代替品目として2年ほど前から1月～3月に出荷できる超極早生タマネギ「トップゴールド305」を栽培に取り組んでいます。しかしながら、球肥大期が短日・低温であるので、肥大が遅れや、分球が発生しやすく、栽培管理に苦慮しています。そこで、三浦半島内でキャベツの代替えとして、多くの生産者が取り組み、機械化による省力化ができるよう安定的かつ高品質で1～2月に収穫が出来る超極早生タマネギの品種の選定や、その品種に適した栽培管理の確立を要望します。	
解決希望年限	☒ ①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	☒ ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	三浦半島地区事務所
対応区分	☒ ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名（①、②、④の場合） Ⅱ-2(1)ア(カ)三浦半島地域における極早生タマネギの安定生産技術の確立			
対応の内容等 1～2月に安定して極早生タマネギを収穫できるよう、‘トップゴールド305’以外の品種の選定と、タマネギの肥大に重要な水分管理について地域に合った方法を確立するための試験を令和7年度から実施します。また、将来の極早生タマネギの産地化を見据え、機械化の導入を想定した栽植密度などを令和8年度以降、検討します。			
解決予定年限	☐ ①1年以内 ②2～3年以内 ☒ ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			